

軒昂会

軒昂会会報 第21号
 発行者 日原 雄
 編集者 田村千秋
 発行日 平成16年11月
 発行 年3回発行
<http://kenkokai.tes-jp.net/>

会報は年3回を予定しています。皆様の原稿お待ちしております。頂いた方にはお礼を申し上げます。原稿の送り先
 秦野市渋沢 3-2-7 〒259-1322
 FAX:0463-88-2967
 E-Mail: ctamur@ybb.ne.jp
 田村千秋

アマダ五十年動続に思う

本間 茂

はじめに 感謝
 私が昭和二十七年入社以来の五十年(半世紀)を振り返りますと、一言で言えばアマダに在籍して平成十五年六月末退職するまで、色々な苦勞は数知れずございましたが、素敵な人生であったと思ひ感謝申し上げます。これからの余生を健康管理していかん楽しく、過すかと言つてを家内と話し合ひますし又出来ると確信しております。

入社当時と都水道局の下請け時代の歴史

昭和二十一年九月 東京都豊島区高田南町に於て故天田勇が個人経営の天田製作所を創設し、工作機械主として旋盤)の修理を目的として発足。
 昭和二十三年六月 事業の拡張に伴い、会社組織を改め「合資会社天田製作所」と改称し、化学工業用並びに建設用諸機械の製造販売に従事し、会社の基礎を確立。

私の天田での歴史は昭和二十七年四月新潟県佐渡郡相川町石名より上京、私の先輩安藤隆夫氏(現天田会)の紹介で東京都豊島区高田南町の合資会社天田製作所(会社の事業内容や規模も知らぬまま)に入社することが決まった時から始まりました。
当時の事業規模
 修理業 工具販売(入社時)
 総括責任者 故天田勇社長
 工場責任者 故天田力雄氏
 工具販売責任者
 江守龍治氏(現会長)
 従業員(工場) 五名
 小出文夫、安藤隆夫、本間茂、岩田(男)、泉(男)従業員(工具販売) 五名、日南田和信、江原和夫、斎藤須賀子、中村(男)、市村(男)
 (総勢十三名(敬称略))
 見習いとして仕事の内容は、何も知らず上京すると、合資

以下裏面

「オーディオと人生」

小川正義

最初に買ったレコード
 片やレコードソフトの方については、社会人になっても熱がさめず、専ら中古レコードを神保町をはじめ方々のレコード店巡りをして買漁った。
 とこで私が最初に購入したレコード盤は「ベントーベン田園」ノメンゲルベルク指揮ノアマムデルタム・コンセルト・ボウ・スコラ盤五枚組だ。
 「レ盤では、ベントーベン第七番」ノケルベル指揮ノベルリンフィル・エッセツク盤であった。
 給料をもらつては、有金全部はたいてどいづてもカタが知れているが、買つてしまひ神田から当時住んでいた学芸大学まで徒歩で帰つたことも再三再四あった。

《最近よく聞くレコード》
 今は無性にピアノ曲が聴きたいのである。
 評論家吉田秀和さんなどと戦後評論家の草分けである遠山一行さんの著作集第二巻「音楽の楽しみ」から引用させてもらえば、実音と再生音について書かれたくだりに、「レコード演奏については、一番抵抗なく音楽が聴けるのがピアノ演奏だ」というのがある。
 私がかねがね同様な感想を持つており、この様なことが、意識的にも無意識にも、ピアノ曲の選定に向わせているかもしれない。
 因みに今聴いているものを紹介させて頂くと次のようになる。
 バッハ「平均律クラヴィア曲集」ふるいパアルヒヤ(チェンバロ)やグハルト(ピアノ)が有名だが若手の感性をかっつて、(ピアノ)で聴いている。

バッハ「平均律クラヴィア曲集」ふるいパアルヒヤ(チェンバロ)やグハルト(ピアノ)が有名だが若手の感性をかっつて、(ピアノ)で聴いている。
 バッハ「平均律クラヴィア曲集」ふるいパアルヒヤ(チェンバロ)やグハルト(ピアノ)が有名だが若手の感性をかっつて、(ピアノ)で聴いている。
 グールド(ピアノ)六曲いづれも基本組舞が用いられているが、三拍子系舞曲で第二拍子にアクセントがくるサラバンドが私の感覚と相

性がいいの好きである。

ブルームス・ピアノ曲集

(ソナタ・間奏曲)ノカッチェン(ピアノ)梅雨時の陰つな気持ち吹き飛ばす精神鼓舞型の音楽も悪くないが、逆らうことなく、一層の物寂しさをのらせる楽しみを味わう心境で聴いている。
 ドビッシ「前奏曲」ふるいギーゼキング(ピアノ)とミケランジェリ(ピアノ)で楽しんでる。一曲毎の詩的でロマンチックな標題が気に入っている。
 《憧れのスピーカー タンノイ》
 オーディオルームの企ては失敗に終わったが、私にはどうしてもトライしてみたいことがある。

それはタンノイのスピーカーで好きな曲(室内楽が最適)を聴いてみたいのだ。
 英国製のスピーカーメーカータンノイ社のウエストミンスター・ロイヤル(幅九百八十二センチ・高さ四百センチ・奥行五百六十一センチ・重量百四十五kg・価格三百二十万円也)である。
 往年のオートグラフの伝統と魅力を守つており名器の誉れ高き逸品である。
 今では、性能的にこれを凌駕するスピーカーは数多くあるといわれ、CPOをパーフェクトに鳴らすには難ありともいわれている。

しかし私にはその品格の良さにおいては及ぶものはないと思ふし、ある種の神格的なイメージさえ感じられる点が、たまたまなく好きである。
 アコースティック蓄音機グレンザが、今のこのエレクトロニクス時代のにも、その価値を誇つているのと同様である。
 以下次号ご期待

編集後記

本間会員投稿の「アマダ50年動続に思う」を数回にわたつて掲載します。アマダの歴史がよく纏められていて興味深く編集できました。次号も期待下さい。

伊勢原市恒例の「道灌祭り」が10月16日～17日ありました。晴天にめぐまれ大勢の見物者でにぎわいました。太田道灌にはにしきのあきらがふんたパレードがありました。次のURLに写真を載せていますのでご覧ください。

<http://ctamura.cool.ne.jp/ctsweb/sll/doukan/index.html>



「道灌祭り」小林綾子ふんする北条政子

軒昂会だより

新会員募集中です、紹介お願いします。
総会兼新年会のご案内
 平成十七年一月十六日(十七日)開催します。詳しい内容は同封の葉書に記入してあります。出欠の葉書は十二月二十日までお願いします。

お願い
 平成十六年度軒昂会年会費二千円合計までお振り込み下さい。株式会社みずほ銀行 厚木北口支店
 店番号 三七一
 口座番号 二二二六九〇〇
 軒昂会 代表者 小泉 岩根

三溪園ツアーガイドボランティア

櫻田 忠男

今回は連載中の「甲州街道歩行」を一時中断して、六月より始めた新しいボランティア活動についてその概要を紹介させていただきます。
 横浜本牧の三溪園は明治三十九年に原三溪によって初めて一般に公開されました。開園当初は、生糸貿易で財を成した原一族の私有的庭園で、関東大震災で一時は崩壊し、第二次大戦では空襲による焼失は免れたものの戦後の混乱で建築物や庭園は荒れ放題になりました。
 昭和二十八年に原家から横浜市に寄付され、現在は財団法人三溪園保勝会によって、生糸貿易の遺産として国の重要文化財が十件、横浜市指定有形文化財が三件、大切に維持管理されています。
 五万八千坪の広大な閑静な園内には京都や鎌倉から移築された古建築物や三溪自身によって建てられた建築物があたかも屋外博物館のごとくに配置されています。
 これらの建築物やその中にある美術品をお客様に説明しながら園内をご案内するのが、ツアーガイドボランティアの仕事です。最も大切なことはお客様の来園した目的が何なのかと、時間的余裕がどのくらいあるかを知ることです。観光ガイドではありませんので書物から得た知識をそのまま説明しただけではお客様は満足しません、個々のお客様の真の要望をいち早く察知して、その欲求を満たすようなナレーションが必要なのです。
 自分自身が説明しやすいようなマニュアルを作成してそれに基づいた説明をしていきますが、時間のないお客様にはまずエッセンスを知っていただくために美術品の常設展示が行われている三溪記念館を見ていただくようにしています。作品鑑賞中に交わすお客様との会話の中からニーズを知ることができずから、それら美術品に関連のある建築物に案内するようにしています。
 お客様にもう一度、三溪園に来ていただけるような説明をするためには、自分自身も建築物や美術品に惚れ、園内の植物や花々を好きにならなくてはなりません。私が好きな建築物は園内で中心的な景観をなす「臨春閣」です。国の重要文化財に指定されている、この建築物は紀州徳川家の初代藩主徳川頼宣が紀ノ川の畔に立てた夏の別荘で三つの部分から構成されています、その一つ一つがそれぞれ目的にあった機能を持つていて、流れて説明できるからです。



軒昂会の方で三溪園を訪ねようとお考えの方は是非「一報ください」と言われる様なご案内をいたします。現在火曜日と木曜日が自宅でのボランティア・パソコン塾、水曜日にツアーガイド・ボランティアをしています。

(写真は蓮の花と三重塔)
 紅葉の遊歩道と重文の公開 十二月十一日まで

会社天田製作所の一階が工場二階が天田さんご家族の住居で、二階六畳間に先輩と同居でした。

仕事場は一階で三十坪位の所で、工具販売は道路を挟んだ前にこじんまりした事務所。工場は就業時間午前七時から夜の十時が定時間で日曜日祭日も休むことはなかったように思います。ただ田舎者で休日に休むことなど考えたこともなく働くことばかり考えていました。最初の仕事と言えは町内に貢献する目的で自転車の破損部をガス溶接修理してあげることでした。修理代はその当時十五円とか三十円位であったと思います。コロッケ、カツなど五円から十円の時代であり、私の給料は一ヶ月五百円でした。当時の工場設備、 Δ 式四尺五寸旋盤（故天田勇社長会社創設記念のマシン） Δ 式八尺旋盤

#2 ミーリング

ボール盤
ガス溶接装置、その他全部戦争で焼けた機械の再生機と聞きました。

私も酸素溶接技術を身に付け、現アマダ本社棟二階五十年メモリアルホールに設置の Δ 式四尺五寸旋盤加工技術も身に付けることが出来ました。多目的の修理業であるため現場作業が何でも出来るようにと故天田勇社長にご指導を受けました。又現場に於ける直接作業については故天田力雄さんのご指導の下、毎日のように勉強しました。修理実務としては、当時の出張仕事で大切なことの溶接作業習得の過程でいまだに忘れ難いこととして、固定式カーバイトタングの汚れを知らずに素手にて掃除し指先が解けて何日も痛んだことを思い出します。又、会社の隣りにある花川の力リント工場の力リント大鍋底穴埋め溶接作業は三十円位の仕事代と力リントを袋一杯。出張修理にはリヤカーにカーバイトガスタング、酸

素ポンペを積み込み自転車で一人が運転し一人は後に乗り、上り坂は後から押す。溶接代金の中からお風呂代十円を使わせてもらった記憶があります。

定期的な修理が発生する、下落合の森永乳業では牛乳ピンの洗瓶機の修理。これは夜の生産が終了した九時頃から修理が終わるまで夜中も関係なく安藤先輩（天田会）と修理したこともありました。牛乳は飲み放題で下痢したこともあり。又南町の大正製薬、武田薬品等の機器修理等、そして又新宿西口で鉄筋四階建てのビルの鉄筋解体工事にも出向きました。酸素ポンペはロープで結わき四階まで引き上げる作業は片手でつかまり片方でガスを出しっぱなしにして鉄筋切断し、終了すると、酸素ポンペは下に放り落とすと言ったことも度々。

高田南町から新宿までの道程は上り下りがあり自転車で一時間三十分位かけて安藤先輩と一緒に作業した思い出が忘れられません。

東京都水道局、浄水場、配水所、水道建設、下水場からの受注にも対応しました。水道建設には（大きな六百ミリ径以上扱つ）一・八メートル位の水道管を切断する機械を製作して納入しました。

下水場としては、芝浦下水場、砂町下水場、三河下水場、銭亀ポンプ場、淀橋浄水場（現東京都庁）、金町浄水場、砧浄水場上、砂町浄水場下、羽村取水所、玉川浄水場等から受注。

羽村取水所よりシヨベルカーの修理（神戸製鋼製）を受注。エンジン、キャタピラ交換修理を完了し試運転すると、キャタピラの締め付けボルトに標準のSボルトを使つたら、一回キャタピラを動かすと強度がなくボルトが破断、強度鋼SCM111材料でボルトを製作して完成させたことがあった。

玉川取水場より取水するごみよけスクリーン修理交換。これは三×六尺×十ミリ鉄板を網目にほり穴をドリルで開ける作業を徹夜で五枚も行つた思い出もよみがえります。

特に多い冬の水道管破裂での工事は時間にも、休日又は正月にも関係なく工事は実施され、殆んど手掘り作業で時間を多く要したことも思い浮かびます。

バルブ開閉ハンドルの鍛造品とハンドルの溶接工事では、電気溶接機がないためコークスにて火を起こし加熱して接続を酸素溶接で実施。水道局の仕事では淀橋浄水場で真冬に貯水池に潜りバルブの取外し修理も行った。何が何時発生するかわからない当時の状況であつた。

大型ポンプの修理又はバット付トロッコ修理等、何でもかんでも修理する技術があつたと思います。

東京都下水道局の仕事では、砂町下水場汚水便よりメートルガス貯蔵タンク約三十メートル直径に送り込まれて来る汚水便をカクハンする羽（ステンレス軸シャフトに鋼の）の鋼破損を交換する作業でタンク内にメタンガスが発生しているのでタンク内から送風機を使い外部に送り出す。中に入る作業者は身体全体を保護するには限界があり、ゴム長靴と腰には紐で工具を縛りつけて鋼の取り外し取り付けを行った非能率的な姿勢で実施した思い出が忘れられません。とび職活用（お酒を飲ませて）も度々あつた。

以下次号



秦野市「風のつり橋」に咲く秋の花
(表の写真と重なるために下に配置しました。)